

筑波大学附属図書館 年報 2020 年度



University of Tsukuba Library

Annual Report

2020



目次

UNIVERSITY OF TSUKUBA LIBRARY
ANNUAL REPORT 2020

20

C O N T E N T S



1	1 館長挨拶
2	2 トレンド 大学での研究および講義への新型コロナウイルス感染症の影響
3	3 フォーカス (2020 年度の特徴的な活動・事業) 1) 新型コロナウイルス感染症対策における利用者サービス 2) 新型コロナウイルス感染症対策下における電子リソースの提供について 3) 令和 2 年度筑波大学附属図書館企画展「もう一度見たい名品～蔵出し一挙公開～」 4) オンラインワークショップ「CMS を利用したデジタルアーカイブの構築」を開催 5) オンラインによる学習支援 6) 中央図書館でより安全で快適に過ごすために 7) 附属図書館ボランティアの活動 8) 「令和 4 年度以降の筑波大学における電子ジャーナル等の整備方針」決定
10	4 資料紹介 近現代史料データベース オンライン版 三木武夫関係資料
11	5 職員の活動 1) 第 22 回図書館総合展 ONLINE 参加報告 2) 国立大学図書館協会「フレッシュパーソンセミナー」への参加 3) 国立大学協会「2020 年度国立大学法人等若手職員勉強会」参加報告 4) 大阪大学職員研修「コロナ禍をふまえた大学図書館、研究者とオープンサイエンスの必要性」に参加して 5) 令和2年度関東甲信越地区国立大学図書館協会研修会への参加 6) 第 4 回東京大学学術資産アーカイブ化推進室主催セミナー「使われるデジタルアーカイブになるために」への参加 7) 論文発表
15	6 トピックス 1) サービス・活動 2) 展示 3) オリエンテーション・講習会 4) 研修・シンポジウム 5) 会議 6) 研究開発室
18	7 メディアにみる附属図書館 1) 学内外のメディアに掲載された当館に関する記事 2) 筑波大学附属図書館の刊行物 3) 筑波大学出版会の刊行物 4) 出版・放映・web 上に掲載された所蔵・公開資料
20	8 組織図・歴代図書館長
21	9 統計

表紙写真

上：中央図書館とシダレザクラ

下：中央図書館ラーニングスクエアにて 距離を保った座席配置

裏表紙写真

上：中央図書館とタイサンボク

中央図書館脇に設置されたベンチ

中：開館再開時のがまじゃんぱー

下：中央図書館360°VR撮影画像

※本冊子に記載の所属・役職は全て2021年3月31日現在のものです。

館長挨拶

中央図書館 エントランス



副学長(企画評価・学術情報担当)・附属図書館長

阿部 豊

皆様のお手元に、「筑波大学附属図書館年報2020」をお届けいたします。

2020年度は、前年度末から世界的に蔓延している新型コロナウイルス感染症が、大学における教育や研究等を始めとした様々な活動に影響を与え続け、その中でいかにして大学としての役割を果たし、機能させるかを模索し、実践する年となりました。そうしたなかでの附属図書館の活動を振り返り、ご紹介いたします。

2020年4月3日に感染症拡大防止に向けた行動の自粛等要請が学内に発出されて以降、大学が示す方針に沿い、附属図書館も、第一四半期は在宅勤務等を活用しながら勤務体制を変更しつつ活動してきました。

4月上旬の土日臨時休館を経て、4月18日～6月18日までの2か月にわたり全館を臨時休館することとし、この間は本学の学生・教職員に対しては蔵書貸出や複写物の郵送を行いました。また、本学が契約する電子ジャーナルやデータベースの一部は契約を見直して利用範囲を拡大したほか、出版社によってキャンパス外からの接続や同時アクセス数制限の一時的な解除、新型コロナウイルスに関する論文の無料公開等が提供されました。当館では、そうした論文情報にたどり着く手段を確認し、電子書籍の利用案内とともにインターネット上で取得可能な情報の収集とその周知に努めました。

6月19日からは時間を短縮した平日開館を再開し、11月には通常に近い開館体制となりました。来館する学生も徐々に増えてきましたが、授業の多くがオンライン化されたこと、遠距離通学者は居住先からの移動が困難な場合が多くあることなどから、入館者は1日平均で昨年度の3～5割に留まっています。学外者については、2020年3月5日以降、本学への入構についても慎重に取り扱われており、図書館の入館も現在までのところ遠慮いただいているところです。貸出中圖書の返却期限を延長し、利用証有効期間を利用再開時に延長予定ですが、地域社会への情報提供に取り組むためには、こうした事態に対応するだけでなく、新たな活動のあり方が問われているのではないかと考える次第です。

また、年度初めに予定していた新入生に対するオリエンテーション等は、集合・対面で予定されていた方法はすべて取りやめとなりましたが、事前に用意していた資料に説明を加えた動画等を作成して教員に提供するとともに、図書館利用ガイダンス、見学ガイド、オンライン講習会、中央図書館の360° VR画像等、様々な企画を検

討し、オンラインで視聴できる動画や資料を提供してまいりました。

そのほか、各館を会場とした学生団体による展示イベントの受け入れや館内に設置している全学計算機の利用提供も難しく、附属図書館が蔵書利用を目的とするだけでなく、イベント参加やレポート作成をきっかけとした学生活動における交流の場であったことの重要性を再認識しました。そうしたなかで、毎年展示室で開催してきた特別／企画展示を電子展示として、「もう一度見たい名品～蔵出し一挙公開～」を開催し、同ウェブサイトへ多くの来訪者があったことは喜ばしく、当館の研究開発室が主催したIIIF対応デジタルアーカイブ構築に取り組むオンラインワークショップも多数の参加を得られるなど、附属図書館によるイベントの在り方の幅を広げる機会となりました。

さらに、今年度は電子リソースの必要性和重要性の認識を新たにした年でもあります。日常生活での移動を制限される状況にあって、インターネットから情報入手できることは、学習や研究環境の場所による制約を回避することにつながります。そして、学内各所との協力により、本学の研究や教育・学習のための基盤となる電子ジャーナルとデータベースの整備方針を定めることもできました。引き続き、地理的・時間的制約の少ない利用環境の充実に向けて整備を進めます。

附属図書館では、利用者へ提供するサービスの充実を目指し、今後もより一層の努力を重ねてまいります。どうぞ皆様の積極的なご利用と、附属図書館活動へのご理解とご支援の程をよろしくお願いいたします。

(2021年3月31日)

大学での研究および講義への 新型コロナウイルス感染症の影響

2020年度は新型コロナウイルス感染症が様々な社会活動に影響を及ぼした1年でしたが、大学図書館においても例外ではなく、筑波大学附属図書館でも運用面に様々な制限が生じました。

大学の新年度開始からまもなく4月から6月にはキャンパス内入構制限に伴う臨時休館、再開後にも開館時間の短縮や館内設備の利用停止といった、物理的施設としての図書館に対する利用可能範囲を減じざるを得ない状況があったなかで、学内ではどのように学習研究が行われていたのか、教員への聞き取りを行いました。

●文献の取得状況について

電子ジャーナルやデータベースの利用によって論文や情報の入手は可能だった

●授業への対応について

当初は授業の開設時期を秋学期に移したケースもあった

授業の開催において、事前に知るべきオンラインシステム操作設定の方法や、授業内での著作物取り扱いに関する情報等を取得しやすい仕組みがあると望ましいと感じた

使用可能なオンラインシステムが複数にあったことから、授業によってプラットフォームが異なる場合は、それに合わせて複数のプラットフォーム設定を切り替えて受講することとなり、学生の負担が大きかった

移動が困難な状況にある、または大学から地理的に距離のある場合にも受講や情報交換が可能だった

一方、附属図書館では学内所属者に対してつぎのようなサービスを提供していました。

- 所蔵図書の貸出あるいは学内外所蔵資料の複写物を郵送で提供した(当初は授業準備する教員、学位論文を執筆する学生が対象であったが、後日、来館が困難な学内者を対象とした有償サービスとなった)
- 貸出図書の返却期限が臨時閉館中となる場合には貸出期間を延長した
- 提供データベースの変更契約を行ってアクセス範囲を拡大した
- 「来館せずに利用できるWebサービス」としたウェブページを作成し情報を提供した
- 対面形式に代えてオンラインによる講習会を開催し、その資料をインターネット上で公開した

文献取得については、2020年度の電子ジャーナルや電子ブックへのアクセス数統計が前年度より高い結果となっていることから、附属図書館が整備している環境が当時の学習や研究に役立ったといえるかもしれません。しかし同時に、インターネット上では公開されない資料は所蔵館での直接閲覧や相互貸借依頼によるアクセスとなるため、所蔵館が諸事情により休館やサービス停止していた場合には情報を得る手段が一時的に失われていたことが伺われます。(「9. 統計 1. 推移と分析」参照)

そして、オンライン授業に関する附属図書館の対応は、授業に関連する資料提供でしたが、附属図書館への要望ではないものの、授業実施のためのシステムに関する情報を必要としたケースがあったことがわかりました。そのほか学生からは、オンライン授業に出席するための場所として図書館を利用することについての問い合わせを受けています。

こうした利用者側の状況に対応する提供サービスを確認することは、これまで行われてきたことですが、また、今後はより重要となるのではないかと考えられます。

2000年代以降の大学図書館においては、蔵書資料の貸出を土台としながら、電子ジャーナルや電子ブック、データベースなどインターネット上での情報提供と、ラーニングコモンズでの集団学習や意見交換、成果発表といった活動の場を図書館内に設けて活用を促すことを大きな役割と捉えてきました。今回のようなかたちでのサービス規模の縮小は、過去の被災経験があってもなお想定できなかった事態ですが、附属図書館による提供サービスを、学習研究においての選択肢として認識されるようにすること、また選択肢は状況にあわせて複数持てるよう検討すること、そしてそれらの提供継続に努めることは、事態の変化に左右されません。

新型コロナウイルス感染症の収束時期が見通せないなかでも、大学が学びや研究を絶やさずに続けるための情報基盤のひとつとして図書館がその役割を果たせるよう、学内外組織との連携や利用者との情報交換のもとに活動を進めることの重要性を改めて感じました。

1. 新型コロナウイルス感染症対策における利用者サービス

1. 概要

筑波大学附属図書館は、大学における学習、教育、研究活動の支援に不可欠な学術情報基盤として、さまざまな学術情報とそれらにアクセスするための環境、その利用を支援する人的サービスを提供しています。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の流行という未曾有の事態によって、これらの機能が大幅に制限され、その対応に大きく力を割かれた一年でした。

ここでは、この一年の附属図書館の利用者サービスを、開館状況、資料サービス、施設・設備の利用と感染症拡大防止対策の3つの面から振り返ります。なお、電子ジャーナル等の利用、学習支援やオンライン講習会等の状況については、別掲の報告をご覧ください。

2. 開館状況

新型コロナウイルス感染症が急速に拡大した3月下旬から4月にかけて、人の移動や活動の自粛が求められ、筑波大学でも学内での活動が制限されていきました。附属図書館もこれを踏まえて、利用の制限や開館時間の短縮、臨時休館を行い、徐々に活動を縮小していきました。

4月16日(木)には全国に緊急事態宣言が発令され、4月17日(金)から、本学でも学生の入構が原則禁止、職員の出勤人数は従来の3割程度とするなど、学内での活動が大幅に縮小し、附属図書館も4月21日(火)から全館臨時休館のやむなきに至りました。

臨時休館は約2か月続きました。緊急事態宣言は5月25日(月)に解除され、大学では6月19日(金)から活動形態の変更により、学生の入構が再開されました。附属図書館でもこれに合わせて、全館の開館を再開しました。

当初は、時間を短縮して開館しましたが、夜間の外出自粛の緩和や秋学期からの対面授業の再開などを踏まえて、段階的に時間を延長し、11月2日(火)からほぼ通常開館に戻りました。

この間の開館時間の主な変更は以下の通りです。

- 3/28 (土)～ 大塚図書館の土日臨時休館
- 4/4 (土)～ 中央、医学図書館の土日を臨時休館
(体芸、図情図書館は春季休業期間中休館)
- 4/8 (水)～ 大塚図書館を臨時休館、筑波地区の平日の開館時間を短縮、土日を臨時休館
- 4/20 (月)～ 中央図書館のみ平日午後開館、専門図書館を全館臨時休館

- 4/21 (火)～ 附属図書館の全館臨時休館
- 6/19 (金)～ 全館とも開館時間を短縮して開館し、筑波地区は土日祝日を、大塚図書館は日月を臨時休館
- 9/14 (月)～ 中央、医学図書館が20時まで平日夜間開館を再開
- 10/1 (木)～ 筑波地区平日を22時まで開館(中央を除き通常開館)、中央と医学図書館の土日祝日開館を再開
- 11/2 (火)～ 中央図書館の深夜開館(22:00-24:00)を除き、平日の夜間、土日祝日(大塚図書館は日月)を、全館通常どおり開館
- 1/12 (火)～ 大塚図書館の開館時間を短縮(東京都における緊急事態宣言の発令を踏まえて変更)

入館者数を一日平均で比較すると、中央図書館の6～9月の平日が400人前後、ほぼ通常開館となった11月以降は800人程度で、全体としても例年の4～5割程度でした。中央図書館の授業期間中の平日入館者は、例年2,000人を超えますが、2020年度は12月に1,000人を越えたのみでした。これは、対面授業が再開されたものの、オンライン授業の比率が高く、移動の自粛等もあって、学生が大学に来る頻度が減ったことが大きな理由と考えられます。

なお、学外者の利用は2020年3月から入館制限が続いていますが、段階的な利用再開を検討しています。



中央図書館2階利用制限中の様子(2020年4月)

3. 資料サービス

附属図書館が提供するサービスには、資料の閲覧・貸出やレファレンスといった来館型のサービスと、電子ジャーナルやマイライブラリを使ったオンラインサービスなど非来館型のサービスとがあります。

2020年度は、感染拡大防止のため、来館型サービスを大幅に縮小せざるを得ませんでした。特に4月の臨時休館が始まった当初は、閲覧・貸出を含む来館型のサービスを停止したため、学生、教職員の皆様には、大変なご不便をおかけしました。附属図書館では、これを少しでも解消するため、代替手段として図書の貸出・文献複写の自宅への郵送サービスを実施しました。

郵送による貸出・資料複写サービスを、臨時休館中の5月8日(金)からオンライン授業を行う教員向けに、5月28日(木)から学位論文等執筆中の学生向けに開始しました。このサービスは大学の料金負担により、6月17日(水)まで受け付け、期間中の貸出は約900冊、複写が約1,200件となりました。

開館再開後も感染防止等のため大学に来ることが困難な学生・教員に対応するため、7月2日(木)から郵送サービスを再開し、料金は個人負担ですが、現在も継続して実施しています。

4. 施設・設備の利用と感染症拡大防止対策

附属図書館の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策は、国や大学の対処方針に従い、「図書館における感染拡大予防のガイドライン」(日本図書館協会)などを参考としています。

マスク着用や手指消毒、3密の回避など基本的な対策を呼びかける他、施設・設備の利用に関して、以下のような対策をとっています。

- カウンターにビニールカーテンや仕切り板を設置
- カウンターの待機場所にフロアーマーカーを貼付
- 館内への手指消毒液の設置
- 館内設備の消毒用に、除菌ティッシュを用意
- 閲覧席を間引
- 机上の一部には仕切り板を設置



中央図書館2階検索端末(2020年6月)

研究個室は秋学期の開始に合わせて、11月から利用を再開しましたが、セミナー室の利用など、グループ学習、人が集まって対話をしながらの利用については、引き続き利用を制限しています。

ラウンジなど、利用制限を行った場所には、立ち入り禁止テープで仕切っています。黄色に立入禁止の黒字が目立つテープは、新型コロナウイルス感染症を象徴するような光景かと思います。

図書館の展示スペースでは、学生による展示も活発に行われていましたが、2020年度の春学期は利用を休止しました。秋学期からの利用再開後は、ギャラリートークやパンフレットの配布など対面での活動は制限し、観覧者が十分な距離をとって展示を見られるよう配置の工夫をお願いしています。

また、2020年度は新型コロナウイルス感染症対策予算の追加配分を受けて、対面での接触を減らす自動貸出機の更新、換気のための網戸の追加などの設備を更新することができました。



カウンター(レファレンスデスク)(2020年12月)

5. 今後に向けて

2020年度当初は、全国の多くの大学図書館が、ほぼ2か月休館するという、かつてない事態となりました。閉館中には学生や研究者から開館の要望が多く寄せられ、図書館が所蔵する冊子体資料の必要性、図書館という場の重要性を改めて認識させられるとともに、国内の資料の電子化の遅れも指摘されました。

新型コロナウイルス感染症の流行は当分続くと思われますが、適切な感染症対策をとり、図書館を継続して開館することを第一に、皆様の学習研究支援を進めていきます。

また、今後もオンライン授業が併用され、時間や場所を問わない学習スタイルが定着していくと考えられます。図書館の電子化を進めることはもちろん、これまで来館が前提であった貸出、複写、レファレンスといったサービスの非来館型サービスへの展開を、一過性の対応とせず、ポストコロナに向けて一層の活用を進めていきたいと思っています。

(アカデミックサポート課長 山本 淳一)

2. 新型コロナウイルス感染症対策下における電子リソースの提供について

電子リソース(電子ジャーナルやデータベース、電子ブック)は、これまでも学外からの利用(リモートアクセス)が可能となるよう設定を施してきましたが、コロナ禍による入構制限等への対応として、リモートアクセスの必要性、緊急性が一層高まりました。その強化のため、医学情報データベースである「医中誌Web」には、リモートアクセスを有料契約により追加しました。

またコロナ禍への特別対応として各出版社から期間限定でアクセス条件の緩和措置がなされた電子ブックやデータベースについて、情報収集を行うとともに出版社やシステム担当者と連絡・設定を行い、附属図書館Webサイトで情報提供に努めました。

オンライン授業への対応としては、授業で使用する図書の教員推薦を電子ブックでも受け付けるよう変更し、多くの電子ブックを購入して、リモートアクセスによって利用可能な資料を増やせるように努めました。さらに電子ブックの可視性向上のため、附属図書館Webサイトのトップページに電子ブックへのリンクを追加しました。

電子ブックの利用は、新型コロナウイルス感染症流行前と比較すると、全体として大きく増加しています。特に日本語の電子ブック利用の増加が顕著で、本学が日本語電子ブックを最も多く購入しているプラットフォームであるMaruzen eBook Libraryでは、2020年度上半期には前年同時期と比べ約6倍もの利用がありました。電子ブックの利用が多い傾向は、入構制限が緩和された以降も続いています。



電子ブックWebページ

(電子リソース係長 福井 恵)

3. 令和2年度筑波大学附属図書館企画展「もう一度見たい名品 ～蔵出し一挙公開～」

1. 企画展概要

附属図書館の特別展示は平成7年度以降に27回開催され、学内外の多くの方々にご観覧いただきました。今年度は新型コロナウイルス感染症対応のため、展示室での現物展示は断念し、電子展示「もう一度見たい名品～蔵出し一挙公開～」を12月14日(月)～2月28日(日)まで開催しました。

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/2020/index.html>

2. 企画展Webサイト構成

Webサイトのデザインは、過去の展示から代表的な資料の画像を配置し、名品の蔵出し感を演出しました。電子展示は2部構成で、平成16年～令和元年の各展示から、選りすぐりの資料を数点ずつ選び「もう一度見たい名品」として紹介し、平成7年以降に開催された展示会を振り返り「特別展・企画展の軌跡」として紹介しました。

「もう一度見たい名品」では、各展示の概要や一押し資料の説明を加え、高精細な電子画像により資料を見ることができるようになっています。併せて、「特別展・企画展の軌跡」では、過去の展示オフィシャルWebサイトを、開催当時の形はそのままに資料リストやリンクを整備して最新の書誌情報や電子画像にアクセスできるようにしました。

開催中には、Twitterを使いポスターに使用した資料を中心に紹介を行うなど、電子展示をより楽しんでもらえるような工夫もしたほかに、展示資料の画像を使用したしおりもダウンロードできるようにしました。期間中、Webサイトへのアクセスは約4,850件あり、多くの方に貴重な資料をご覧いただきました。



企画展Webサイト

(情報企画課主幹(企画展WG主査) 大久保 明美)

4. オンラインワークショップ「CMSを利用したデジタルアーカイブの構築」を開催

1. 概要

2020年9月11日、附属図書館研究開発室は人文社会国際比較研究機構との共催により、Zoomによるオンラインワークショップ「CMSを利用したデジタルアーカイブの構築」を開催しました。

本ワークショップは、デジタルアーカイブ（DA）構築に特化したコンテンツマネジメントシステム（CMS）であるOmeka Sと汎用CMSであるDrupalの対比を通じて、DA構築について現状と課題の共有を目的として開催されました。当日は、145人がZoomへの接続を行いワークショップに参加しました。

2. プログラム

最初に、宇陀則彦氏（筑波大学図書館情報メディア系）から、開催趣旨説明とデジタル世界の変化について説明があり、IIIFの可能性と新しい図書館サービスについて提案がありました。

次に、中村寛氏（東京大学史料編纂所）からは「Omeka Sを用いたIIIF対応デジタルアーカイブ構築の実践」について講演が行われました。Omekaの種類や特徴の違いに関する説明とともに、導入事例が紹介され、参加者はデモサイトにてOmeka Sの機能を実際に使用し、登録作業を体験しました。

引き続き、和氣愛仁氏（筑波大学人文社会系）からは「Drupalを用いたIIIF対応デジタルアーカイブ構築の試み」について講演が行われました。IIIF、Cantaloupe（IIIF対応画像サーバ）、Drupalについての説明があり、講演者が作成したDA管理システムの事例報告がありました。参加者は、このシステムを使って、DA構築作業を体験しました。

講演後の質疑応答では、講義の内容にさらに踏み込んだ解説がなされ、IIIF対応への具体的なヒントを探ることができました。また、CMSは操作が簡便である一方で、DA構築においてはシステム運用の持続性を意識することが必要であるという認識が共有されました。

当日の資料は「つくばリポジトリ」から公開しています。
https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/search?search_type=2&q=8105

（情報企画課主幹 大久保 明美）

5. オンラインによる学習支援

1. 概要

附属図書館では、新入生を対象とするフレッシュマン・セミナーの開催、各種データベースの使い方を学ぶ講習会の開催、大学院生のラーニング・アドバイザー（以下、LA）によるピアサポート等により、学生の学習を支援しています。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、従来どおりの学習支援サービスの提供が難しい状況となりましたが、動画によるフレッシュマン・セミナーの開催、オンラインでの講習会の開催、学生サポートデスクのオンライン相談の開始等、新たな取り組みを行いました。また、LAが対面で行ってきたセミナーに代えて、動画で質問に答える企画も実施しました。

2. 図書館フレッシュマン・セミナー

新型コロナウイルス感染症の影響で多くの授業がオンライン化される中、図書館のフレッシュマン・セミナーも対面ではなく、講義の動画と館内見学ガイドを作成・提供することにより実施しました。なお、講義動画、テキスト、見学ガイドは、6月中旬から附属図書館Webサイト上でも公開しています。

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/support/guidance-haifu>



図書館フレッシュマン・セミナー 講義動画

3. オンライン講習会

4月から6月に予定されていた春の図書館講習会は休止せざるを得ませんでした。秋学期にはぜひ開催したいと考えてデータベース提供元や専門図書館と調整し、データベース提供元の講師による同時配信型のオンライン講習会や、職員が作成した動画の提供を行うこととしました。

学習支援システムのmanaba上に講習会のコースを開設し、同時配信での開催によるものと動画提供によるもの、計21件を実施しました。初の試みで不安もありましたが、manabaで実施したアンケートでは「満足」「やや満足」との回答が多く、参加してくださった方の満足度が高

かったことに安堵しました。今後はアンケートに寄せられたご意見も参考に、学習や研究の役に立つ講習会を企画・開催したいと考えています。

4. 学生サポートデスクのオンライン相談開始

来館が難しい学生にも「学習に関する悩み」を相談する機会を提供するため、従来の対面サービスに加え2020年12月7日から学生サポートデスクのオンライン相談（試行）を始めました。当日学生サポートデスクに勤務するLAがオンライン相談にも対応します。サービスにはZoomを使用し、前日までの予約制で運用しています。新たな学習支援サービスとして多くの方にご活用いただくことを目標に、引き続き取り組みを進めていきます。

5. LA企画「LAが筑波大生の質問にオンラインで答えてみた」

LAは学生サポートデスクで学習相談を中心とする質問に対応するだけでなく、毎年レポートの書き方セミナー等の様々な企画を行っています。今年度は例年のような対面でのセミナー開催が難しかったことから、動画で学生の疑問に答える企画を実施しました。

「LAが筑波大生の質問にオンラインで答えてみた」と題し、事前に募集した学習や研究に関する質問に座談会形式で答えるものです。LA全員が座談会に参加して動画を撮影し、担当職員も編集に協力して「研究テーマ・進路」「レポート執筆について」「資料の探し方」の3本の動画を作成しました。

完成した動画は2021年1月にYouTubeで公開しましたが、本稿執筆時点で第1弾の「研究テーマ・進路」は450回、他の2本の動画もそれぞれ100回以上視聴されています。動画は以下のURLからご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/channel/UCK8ZZOx19VxL2WS-dJXQ-Mg>

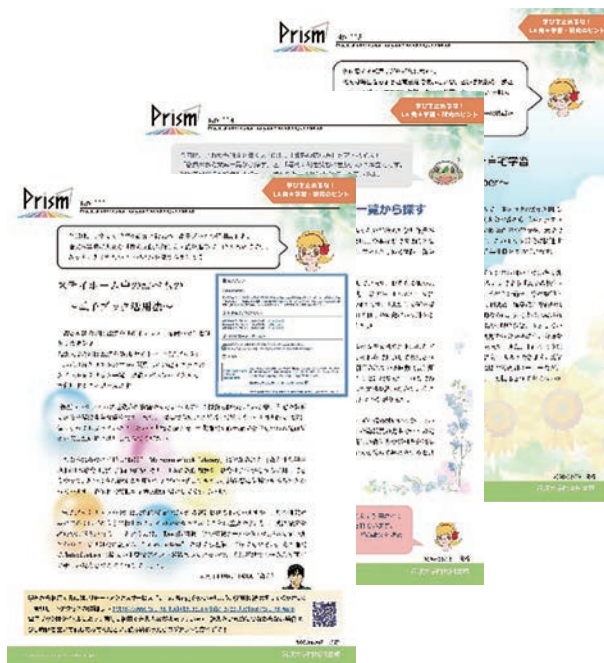


「LAが筑波大生の質問にオンラインで答えてみた 第1弾」

(学習支援係長 大和田 康代)



学生サポートデスクオンライン相談開始
広報ポスター



来館できない学生のため、シリーズ「学びを止めるな! LA発★学習・研究のヒント」と題し、学習に関する情報をPrismにて発行 (No.107~116)

6. 中央図書館でより安全で快適に過ごすために

2020年3月に、中央図書館のレファレンスデスクをメインカウンターと統合し、ボランティアカウンターを入館ゲート前に移設した結果、チャットフレームを広く使えるようになりました。

1. 什器の再配置とアクリルパーテーションの設置

新型コロナウイルス感染症対策として、ソファ類は1台ずつ距離を取って再配置しました。チャットフレームの可動式の机には、飛沫感染防止のための3面タイプのアクリルパーテーションを設置し、限られたスペースに最大限の台数を配置しました。今後も、安全かつ快適に学習・研究ができるように検討していきます。



アクリルパーテーションの設置

2. ギャラリーゾーンの移転

カウンター統合前にメインカウンター前にあったギャラリーゾーンには、視覚に障害のある方から動線の妨げになるとのご指摘がありました。加えて、改修により通路が狭くなったことから、拡大したチャットフレームCに移転しました。これにより、安全かつスペースに余裕をもって展示が楽しめるようになりました。



ギャラリーゾーンの展示

3. 視聴覚ブースの更新

2018年度に実施した図書館利用者ニーズアンケート調査で、中央図書館で不便に感じる点や改善して欲しい点として「視聴覚ブースで人目が気になる」との回答が多くの方から寄せられたことから、他からの視線が気にならないブースに更新しました。新しいブースは机面が広く、図書資料等を参照しながらの利用に便利です。



新しくなった視聴覚ブース

3. 屋外リフレッシュスペースの設置

安全なエントランス環境を確保するために、図書館入口付近駐輪場の再整備を行いました。駐輪禁止とした場所にテーブルと椅子、ベンチを設置することにより、物理的に駐輪を不可とするとともに、新型コロナウイルス感染症にも配慮した屋外のリフレッシュスペースを提供することを目的としています。

芸術系の教員から助言をいただき、欧州や米国の施設の屋外で最も良く使われているメーカーの屋外家具を選定し、適切な間隔をとりながらも、ある程度の可動性を持たせ、安全で使いやすい配置となるよう工夫しました。



中央図書館東側のテーブルと椅子

(アカデミックサポート課主幹 (学習支援推進WG) 守谷 美佐子)

7. 附属図書館ボランティアの活動

新型コロナウイルス感染症への対策のため、附属図書館のボランティア活動は、2020年3月5日から休止となっています。

1. 2020年度ボランティア構成

- 男性：7名 女性：37名 計44名
- 年代別内訳
40代：1名 50代：6名 60代：22名
70代：14名 80代：1名
- 新規：7名 更新：37名

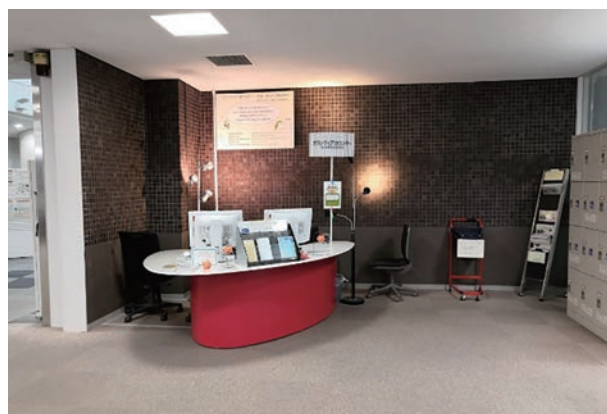
2. 附属図書館ボランティア懇談会

この懇談会は、附属図書館ボランティアと附属図書館長・副館長・図書館職員が年に一度、意見交換を行う貴重な場でしたが、今年度は対面形式ではなく、懇談会資料の配布という形をとりました。

ボランティアの顔合わせができない状況が続いていますが、懇談会資料の中でボランティアの近況報告を掲載したことで、「皆さんの顔を思いだしながら楽しく読んだ」、「活動再開の日を心待ちにしている」等の感想をいただき、紙面上でボランティア間の交流ができたのではないかと思います。

3. ボランティア・カウンターの移設

中央図書館本館2階のボランティア・カウンターを、入館ゲートを入れて右側に移設しました。窓口案内、館内での資料探し、障害のある方へのサポートを行います。カウンターでの活動が再開しましたら、お気軽にお立ち寄りください。



入館ゲート前に移設したボランティア・カウンター

(多様化支援係長 飯田 貴子)

8. 「令和4年度以降の筑波大学における電子ジャーナル等の整備方針」決定

本学では、学生・教職員の研究・教育活動に不可欠な電子ジャーナルやデータベースの整備について、全学的な整備方針により安定的に提供してきました。この方針は、3年ごとに見直しを行っており、現在2021年度までとなっている方針に続く2022年度以降の方針をこの度決定いたしました。

1. 系・センターへの調査

方針の検討材料とするため、2019年12月に系、センターに対しアンケート調査を実施しました。このアンケートでは、全学経費で購入しているジャーナルやデータベースを中心に、教育・研究に必須のもの、全学的枠組みでの整備対象とするのにふさわしいものを調査しました。また、価格上昇に伴う経費増大を踏まえ、今後の経費負担のあり方についても調査しました。

2. タスクフォースの設置・整備方針の決定

方針の検討のため、企画評価・学術情報担当副学長を主査とし、研究担当副学長、財務・施設担当副学長、各系長等をメンバーとする「電子ジャーナル整備方針検討タスクフォース」を設置しました。このタスクフォースにおいて、学内組織へのアンケート結果、購入状況、利用状況等を総合的に判断し、これまで同様、大学全体として安定的に整備すること、全学経費をもって充てること、大学の財政や国内外の学術情報流通の情勢等を踏まえて見直す場合があること等を記載した整備方針案を作成しました。

タスクフォースで作成した整備方針案について、運営会議を経て第193回教育研究評議会において審議の結果、2022年度以降の方針と整備対象資料が決定いたしました。これにより現在の方針に引き続き、安定的な電子ジャーナル等の提供が可能となりました。

3. 電子ジャーナルをとりまく今後について

学術論文については、従来の電子ジャーナル購読価格上昇の問題に加え、近年のオープンアクセスの普及に伴う論文公開方法の多様化、論文をオープンアクセスにするための費用(APC: Article Processing Charge)の負担増という状況も生じています。そのような情勢も踏まえ、今回の方針では国内外の学術情報流通の情勢等により必要に応じ方針を見直し、オープンアクセスやオープンサイエンス等の動向を把握し見直しの際の基本情報とする、としております。附属図書館では、今後の方針検討にも必要となるAPC等論文投稿に係る費用について、2021年度から財務会計システムを用いて把握する作業を開始したところです。これにより学内の情報を得るとともに世界の動向も注視し、本学の教育研究環境の維持・向上に向け取り組んでまいります。

(情報企画課主幹 廣田 直美)

資料紹介

『オンライン版 三木武夫関係資料』

1. 三木武夫とはどういう人か

三木武夫(1907~88)は、1974年12月から76年12月まで第66代内閣総理大臣を務めた人物です。徳島県出身で、明治大学卒業直後の1937年4月の衆議院議員総選挙から連続19回当選し、51年間、代議士生活を送りました。東条英機内閣下の1942年、いわゆる「翼賛選挙」でも非推薦で当選しています。

1947年、国民協同党書記長として社会党・民主党との連立政権を樹立し、通信相となります。その後、運輸相、自民党幹事長、通産相、外相、副総理兼環境庁長官などを歴任しますが、政治記者たちからは、弱小派閥の領袖ゆえに首相にはなれないと見られていました。ところが1974年、田中角栄首相が金脈問題で退陣表明し、福田赳夫、大平正芳、中曽根康弘、三木の間で後継の座が争われると、椎名悦三郎自民党副総裁が「クリーン」な「三木武夫君が最も適任」と裁定し、総理・総裁となりました。

三木は、「政治浄化」や「社会的公正の実現」に取り組みますが、党内の反対で成果を上げられませんでした。1976年に発覚したロッキード事件の真相解明に断固たる姿勢を示すと、自民党議員277人からなる挙党体制確立協議会が「三木おろし」を繰り広げます。三木は、15閣僚の反対により衆議院を解散できぬまま、任期満了の1976年衆院選で自民党が過半数を割った責任をとり、退陣しました。その後は軍縮などに意欲を示しました。

好んで「無信不立」と揮毫し、「議會の子」を自任した三木の胸像は、尾崎行雄と並んで衆議院の正面玄関に置かれています。

2. 明治大学史資料センターの「三木武夫関係資料」

「三木武夫関係資料」は、三木家が、自宅、都内・選挙区の事務所など数カ所に分散していた資料を明治大学史資料センターに寄贈したものです。外交文書や省庁・自民党の資料、国会・総裁選・選挙に関する資料、講演・演説の原稿、メモ、書簡などを含む膨大な資料群です。三木に関する著作を多数出している竹内桂明治大学助教が中心となって分類・整理がなされています。

拙稿「三木武夫の国交正常化前の対中認識」(福永文夫編『第二の「戦後」の形成過程——1970年代日本の政治的・外交的再編』有斐閣、2015年)は、小西徳應明治大学教授のご厚意により同センターで閲覧させていただいた資料を使って執筆しました。佐藤栄作内閣末期の1972年4月、三木は、訪中して周恩来首相と会談しています。周は、福田よりも田中が組閣することに期待し、日本・台湾間の日華平和条約(1952年)について、「不当、不法」とまで言わずとも「無

効」としてくれればよいという認識を示しました。この会談は非公開との約束がありましたが、同席した女婿の高橋巨のメモが「三木関係資料」に残っています。

3. 「近現代史料データベース」の資料の使い方

「三木関係資料」は、ジャパンデジタルアーカイブズセンター(J-DAC)の「近現代史料データベース」から提供されています。近現代の日本政治史・外交史の研究は、国立公文書館や国立国会図書館憲政資料室、外務省外交史料館などに出向き、公文書・私文書を探し、汚さないように閲覧・書写するのが通例です。丸善雄松堂は、人文社会科学分野の貴重な資料をデジタルアーカイブ化して保全し、オンラインで活用できるよう、J-DACをつくりました。「三木関係資料」は、丸善雄松堂の担当者を私が小西教授に紹介したのが収録のきっかけです。

「近現代史料データベース」には、三木のほか、佐藤元首相の首席秘書官・楠田寛、第68-69代首相の大平、現実政治と深く関わった政治学者・矢部貞治、第2次大平内閣の外相も務めたエコノミスト・大来佐武郎らの関係文書が収録されています。本学附属図書館でも、大来以外の文書を横断検索して利用することができ、便利です。

文書の種類	文書の名称	作成時期	作成場所	作成者	作成方法
外交文書	大平正芳首相の三木武夫関係文書	1974年12月	大平正芳	大平正芳	PDF
外交文書	大平正芳首相の三木武夫関係文書	1974年12月	大平正芳	大平正芳	PDF
外交文書	大平正芳首相の三木武夫関係文書	1974年12月	大平正芳	大平正芳	PDF
外交文書	大平正芳首相の三木武夫関係文書	1974年12月	大平正芳	大平正芳	PDF
外交文書	大平正芳首相の三木武夫関係文書	1974年12月	大平正芳	大平正芳	PDF
外交文書	大平正芳首相の三木武夫関係文書	1974年12月	大平正芳	大平正芳	PDF
外交文書	大平正芳首相の三木武夫関係文書	1974年12月	大平正芳	大平正芳	PDF
外交文書	大平正芳首相の三木武夫関係文書	1974年12月	大平正芳	大平正芳	PDF
外交文書	大平正芳首相の三木武夫関係文書	1974年12月	大平正芳	大平正芳	PDF
外交文書	大平正芳首相の三木武夫関係文書	1974年12月	大平正芳	大平正芳	PDF

図「近現代史料データベース」の検索結果

たとえば「椎名悦三郎」と検索すると、図のように「大平正芳関係文書」や「矢部貞治関係文書」の資料も現れます。「三木関係資料」の「椎名悦三郎自民党副総裁裁定」は、手書き原稿の乾式コピーです。椎名は、サンケイ新聞記者・藤田義郎に裁定の文案作成を依頼し、藤田から事前に知らされた三木は、「三木武夫君が最も適任」の前に「政界の最長老である」と加えるように言ったそうです。しかし実際の裁定では「政界の長老」となっています。PDFを見ると、「最」が上から鉛筆で消されています。この文書は、藤田の案を椎名が推敲したものと考えられます。

以上は些細な例ですが、「三木関係資料」が、三木とその時代の実像を明らかにする貴重な史料であることは疑いありません。

(人文社会系教授 竹中 佳彦)

1. 第22回図書館総合展 ONLINE 参加報告

図書館総合展は例年11月に3平日連続で図書館関係者が結集する場として開催されてきましたが、2020年は完全オンライン開催となりました。フォーラムの記録やポスター等は<https://2020.libraryfair.jp>で検索し閲覧することができます。

1. フォーラム

オンラインの利点を特に活用していた3つを紹介します。

●大学図書館の検索インターフェースを考える座談会

現代の図書館サービスに不可欠な関心分野であり、また冒頭に来場者へチャットでの参加を促す発言があったため、登壇者のスピーチの裏で意見・疑問が飛び交うというオンラインならではの賑わいが実現されていました。なお当館からはデジタルライブラリ担当の松野係員が登壇し、YouTubeのアーカイブに掲載されています。

<https://www.youtube.com/watch?v=ms8-pJ0kiRs>

●みんなで翻刻と図書館

市民参加型古文書翻刻プラットフォーム「みんなで翻刻」の小規模な説明会で、チャットで質問するとすぐに口頭で回答されるという双方向の交流ができました。所蔵館が全国に散在する古文書という題材自体もオンライン向きであると考えられます。

<https://honkoku.org/>

●図書館見学会 ONLINE (国際子ども図書館)

案内担当者がVR画像を動かしながら説明していくスタイルで、VRの斬新さと説明の詳細さに引き込まれました。実際に足を踏み入れる体験に取って代わるものではありませんが、距離や定員の障壁を乗り越えるという大きな利点がありました。

<http://kodomo.go-r.3d-vr.jp/>

2. ポスターセッション

ポスターセッションというコーナー名は前回のままであったものの、実際に中を見てみると、従来のポスターの形式を完全に脱却したHTML形式のWebページを発表しているところが多数派でした。オンライン化による変化がフォーラム以上に大きく印象付けられました。

(デジタルライブラリ担当 田村 香代子)

2. 国立大学図書館協会「フレッシュ パーソンセミナー」への参加

1. 概要

2020年11月12日(木)に開催された、令和2年度国立大学図書館協会東京地区協会・関東甲信越地区協会合同フレッシュパーソンセミナーに参加しました。この研修は、新規採用や人事異動により新たに国立大学等の図書館に勤務することになった職員を対象に、大学図書館の動向や業務について、初任者として必要な基礎的な知識を修得することを目的とし、隔年で開催されています。今回は、新型コロナウイルス感染症の影響で、オンライン開催となりました。

2. セミナー内容

セミナーは5つの講義で構成され、中盤に参加者同士で意見を交換するブレイクタイムがありました。

講義1「大学図書館の現状と課題」では、人材育成や電子ジャーナル問題、オープンサイエンスへの対応、学習支援等の近年の大学図書館の課題について伺いました。特に図書館のデジタル・トランスフォーメーション(DX)は今後数年の大きな課題であり、より一層、関係組織との連携が重要になることを学びました。

講義2から講義5では、学習支援や選書・受入・目録、電子リソース・雑誌・JUSTICE、オープンアクセス・機関リポジトリについて、各業務の概要が紹介されました。例えば、雑誌担当の業務では、会計や契約事務に関する知識が不可欠ということです。大学図書館の各業務には図書館の専門知識だけでなく、幅広い知識が必要であることを知りました。

また、ブレイクタイムでは、大学図書館員のポータルサイト「LibrarianMap」が紹介され、参加者の交流を深めるきっかけとなりました。

3. 参加を通して

セミナーを通じて、大学図書館の業務が多様化していること、また、サービスの電子化やオープンサイエンス等の大きな変化の渦中にあることを図書館員の立場から知ることができました。講義で特に印象に残ったのは、2013年に発表された『The future of employment』(Carl Benedikt Frey, Michael A. Osborne 著)という論文に、10年後になくなる職業として図書館員がランクインしていた、というお話です。知の共有・創出の拠点として、大学図書館の新たな機能を追求していくことの意義を実感しました。セミナーで得たことを胸に、広い視野をもって図書館の未来を担う一員となっていきたいと思います。

(学習支援担当 西 彩花)

5 職員の活動

3. 国立大学協会「2020年度国立大学法人等若手職員勉強会」参加報告

1. 概要

2020年12月22日から23日の二日間にわたり、職員研修の一環として標記の勉強会に参加しました。同勉強会は一般社団法人 国立大学協会の主催により、全国の国立大学法人および大学共同利用機関法人に所属する入職から5年から10年目かつ主任以下の事務職員を対象に毎年開催されています。今回は89名の参加があり、筑波大学からは私を含め2名が参加しました。

日程の大半をグループでのディスカッションと成果の報告会が占めており、他大学等に勤務する職員との交流・情報交換の貴重な機会となっています。今回も当初は例年通り東京での開催を予定していましたが、昨今の情勢を受けて集合での開催は断念され、オンラインによる初めての開催となりました。

受講環境にはZoomを使用し、他に情報共有の手段としてChatworkやGoogle Jamboardが用いられました。企画委員の手厚いサポートにより、目につく範囲では接続環境等によるトラブルは見受けられませんでした。

1日目の最後には近畿大学の広報を担われている経営戦略本部長の世耕石弘氏による講演もあり、研究成果で収益を得て次の研究につなげる近大マグロをはじめとした同大学の研究サイクルや、新聞広告・SNSにおける挑戦的な広報戦略など、国立大学職員には斬新かつ有意義なお話を伺うことができました。

2. 参加を通して得られたもの

“ソウゾウセよ。若手職員が閃く！大学職員の「ニュー・ノーマル」”というスローガンの下、報告会では各グループから多彩な提案が発表されました。従来の国立大学職員に与えられてきた役割を現代の社会情勢に照らして再認識し、既存の枠組みや慣習にとらわれない柔軟な発想が多く見られました。

また、各グループからは具体的な取り組みの案も提示されました。私の所属したグループからは「今ある壁を突破できる大学職員」と題して各々を取り巻く環境における業務上の障壁を例示し、その解決策として所属大学内における勉強会の実施、大学の枠を越えたネットワークの構築を提案しました。研修会終了後には実際にFacebook内にグループを作成し、提案した企画の実現と定着に向けて動き出しています。

本研修会を通して得られた他大学・他機関の情報や職員同士のつながりはこのような機会がなければ得る機会もなく、今後も大切にしていきたいです。また、2020年度は新型コロナウイルス感染症への対策として、多くの場面でオンラインツールの可用性が模索された一年でした。この意味でも、本勉強会での体験を学生への講習会や遠隔での調査対応等、今後の附属図書館の活動に生かしていきたいです。

(参考調査担当 石津 朋之)

4. 大阪大学職員研修「コロナ禍をふまえた大学図書館、研究者とオープンサイエンスの必要性」に参加して

1. 概要

コロナ禍により、大学図書館では休館やサービスの制限が行われ、約一年が経過してもまだ、多数の大学図書館で状況は改善されていないと言えます。その間、図書館側も手をこまねいていたわけではなく、郵送貸出やオンラインの活用、館内の感染予防対策など、可能な限りの対応をしてきました。まだまだコロナ禍への対応が必要である現状を鑑みると、今後さらにオープンアクセス・オープンサイエンスが重要となっていくものと思われます。

今回参加した大阪大学の職員研修「コロナ禍を踏まえた大学図書館、研究者とオープンサイエンスの必要性」では、コロナ禍の影響と対応、学術情報へのアクセス、オープンサイエンスの重要性について、状況の把握と知見の共有を図ることを目的とした内容でした。職員研修をオンライン開催とし、学外からも参加者を募ったところ、予想以上に全国からの参加者が多数いたとのことです。筆者もそのうちの一人として参加させていただき、災害等でも可能な限りの図書館サービスを提供したい、そのためのヒントになれば、と思いつつ受講しました。

2. 参加をして

文部科学省上席研究員の齋藤経史先生と、大阪大学教授の齊藤貴浩先生による講演は、文部科学省の博士人材データベースJGRADに登録している博士課程在籍者と修了者へのアンケート調査「新型コロナウィルス流行の研究活動への影響等に関する調査」をもとに、若手研究者にどういった影響が出たかを報告・分析していました。特に自由記述の回答には、在宅を余儀なくされたコロナ禍の中、図書館で契約しているデータベース等のオンライン化を望む、若手研究者たちの切実な声が多く見受けられました。

北海道大学附属図書館の山形知実氏の講演は、オープンサイエンスの必要性と、図書館の必要性について、利用者にとってのオープンの利点を中心に問いかけるものでした。コロナ前後で図書館の役割に変化が出てきたのではないかと、これからの図書館に求められている役割は、自由なアクセスの中から情報を見極めるサポートではないか、という部分が印象に残りました。

最後の東北大学附属図書館の小陳事務部長の講演には、直前に起きた地震被害の報告も急遽追加され、復旧作業でお忙しい中お話をいただきました。大学として学生応援YouTubeの作成や、Go To図書館キャンペーン、デジタルアーカイブ推進など、災害時でも前向きなその姿勢を見習いたい、と感じる内容でした。

(リポトリ係長 藤田 祥子)

5. 令和2年度関東甲信越地区国立大学図書館協会研修会への参加

1. 概要

2021年2月5日に開催された関東甲信越地区国立大学図書館協会研修会に参加しました。コロナ禍で職員の出勤や学生・教職員の来館に制限がある中、様々な大学でオンラインを活用した業務の遂行や利用者サービスが行われています。「みんなはどうする? どうして? -withコロナ時代の図書館を語ろう」と題しオンラインで開催された本研修は、コロナ禍に対応する今後の図書館サービスや図書館運営の在り方を考えるものでした。

研修の前半では北海道大学の「ぐいぐいプロジェクト」、東京学芸大学の「学芸大デジタル書架ギャラリー」、島根大学の「VR図書館ツアー」について事例報告がありました。

研修の後半では情報交換会が行われました。Zoomのブレイクアウトルームを使い、(A)オンライン等を活用した学修支援、(B)コロナ禍における利用者サービス(来館・非来館)、(C)電子的コンテンツの整備・運用の3グループに分かれてテーマに沿った意見交換を行いました。

2. 事例報告

●事例報告1

ぐいぐいPJにおけるオンライン進行を振り返る

北海道大学附属図書館の事例は、有志のプロジェクトメンバーが業務課題の解決や新たなサービスの提案についてSlackをメインツールとしてオンラインベースで検討するものでした。もともと面識のあるメンバーによる活動とお話でしたが、キックオフからの1か月で「ポストコロナの大学図書館」というトピックにとどまらず、幅広い内容の検討や提案が行われていたことに驚きました。また提案に対する上層部からのフィードバックも示されていたことも印象的でした。

●事例報告2

図書館空間をオンラインに

～「学芸大デジタル書架ギャラリー」の紹介～

東京学芸大学附属図書館は、書架画像をオンライン上でブラウジング可能な「学芸大デジタル書架ギャラリー」を公開しています。これは教育学関係の図書を中心に約19,600冊の背表紙を見ることができ、画像データはオープンデータとしてCCBY(クリエイティブコモンズ表示)のライセンスで公開するものです。公開の背景には新型コロナウイルス感染症により臨時休館となり、郵送貸出サービスを開始したものの、貸出件数が伸びず、その理由を蔵書検索では図書が探せないからでは? と考えたことがあったそうです。

書架ギャラリーを見てみると実際の書架の前に立っているように感じました。画面をスクロールすれば書架の間を歩いているように背表紙を

見ることができ、蔵書検索で書誌データを見ただけではイメージしにくい、図書の厚さや装丁、古さ等を感じることができます。図書の内容は見ることはできませんが、背の画像から、この図書を手にとるかどうかが判断の手助けになると思いました。特に大学図書館に不慣れな新生入生にとっては、有効であると思われます。当館でもこの取り組みを参考に、学生の図書館利用をサポートする方法を検討していきたいと思います。

●事例報告3

“非来館”でも図書館を身近に-VR図書館ツアーの試み

島根大学附属図書館は2020年9月にVR図書館ツアーを公開しました。これは、360度パノラマ写真にページ間リンクと館内施設等の説明を加えたものです。写真内に表示された矢印をクリックして進んで行くことで、館内ツアーを疑似体験することができます。当館でも新型コロナウイルス感染症の拡大によって来館できない学生向けに360°VR画像の公開を計画していたため、今回の講演を聴講することにしました。

同館では新型コロナウイルス感染症が流行する以前から、オリエンテーションツアーの省力化とリモートで図書館を紹介できるツールの必要性を感じ、Web上で利用できるバーチャルツアーコンテンツの作成に着手したそうです。具体的な作成方法については省きますが、VRの構築にオープンソースのMITライセンスであるMozillaのA-Frameというウェブフレームワークを使用している点で当館と同じだったため、特にA-Frameタグやライセンス表示が参考になりました。

VR図書館ツアーは、新型コロナウイルス感染症が収束した後も図書館ツアーや教員による授業等に活用してもらうことを想定しているようです。当館も利用者のニーズに応えるため、更なるオンラインコンテンツの拡充を図りたいと思います。

3. 情報交換会

「やってよかったこと」「悩んでいること」「これからやってみたいこと」等のテーマで意見交換を行いました。筆者が参加したAグループでは、特に「悩んでいること」が多く挙がりました。オンライン学習相談の利用の少なさや、オンラインガイダンス・講習会の認知度の上げ方、参加者を増やす方法等、実際の担当者として思わず「うちも知りたい!」と言いたくなる話題ばかりで、参加者が自館の例を示したり、解決に向けたアイデアを出しあったりしているうちに終了時刻となりました。短い時間ではありましたが、他館の実際の状況や取り組み内容を聞いたことは今後の学習支援企画を考える際に役立つと考えています。

対面でのサービスが難しい中で、オンラインならではの学習支援企画を模索する手掛かりとなる研修でした。

(学習支援係長 大和田 康代 多様化支援係長 飯田 貴子
多様化支援担当 新岡 美咲)

5 職員の活動

6. 第4回東京大学学術資産アーカイブ化推進室主催セミナー「使われるデジタルアーカイブになるために」への参加

1. 概要

2021年2月16日(火)に、第4回東京大学学術資産アーカイブ化推進室主催セミナー「使われるデジタルアーカイブになるために」がオンラインで開催されました。

プログラムは、東京大学の取り組みから成るプレセッション、全国からの事例紹介と、事例紹介担当者がトピックについて意見交換と質疑応答を行うパネルディスカッションの三部構成でした。

2. これからのアーカイブ運用

プレセッションでは東京大学が2019年度に公開したコレクションの紹介と、東京大学学術資産等アーカイブズポータルを紹介が行われました。東京大学では、附属図書館をはじめ、多数の部局による資料のデジタル化と公開が行われており、2021年3月現在、17万件以上の資料へのアクセスが可能となっています。ポータルサイトが構築されたことにより、横断検索が可能となり、データの利用条件もまとめて確認することができます。

事例紹介では、①アーカイブのデータ作成、②教育におけるデジタルアーカイブ利用の報告、③国立国会図書館による2020年に公開を開始したジャパンサーチの解説がありました。①アーカイブのデータ作成について、新型コロナウイルス対策としての在宅勤務中に、図書館職員が検索タグの作成を行い、また、資料のくずし字読解のために大学院生を雇用し在宅で作業を進めており、個人で行える作業のために在宅勤務中の業務として大変適していたとの報告がありました。②教育におけるデジタルアーカイブ利用の報告では、小中学校の社会の授業においてデジタルアーカイブを使用し、調べ学習の根拠として利用を促しつつアーカイブをより利用しやすい存在として生徒に印象付けていました。③ジャパンサーチの解説では、利用者に対して、書籍とだけでなく芸術分野や地域アーカイブとの橋渡しとなるとの説明があり、各資料の二次利用条件が明記されていること、また、マイノート機能により簡単に調査をまとめられることなどが述べられました。

アーカイブの作成・公開は、貴重な資料を管理している機関にとって重要な課題ではありますが、それだけにとどまらず、公開した資料が利用者に有効活用されるこそが本来の意義です。そのためには、求められる資料の発見が容易になるように、横断検索を可能にするポータルやプラットフォーム、タグでの管理などの整備を行う必要があります。公開した資料が効果的に利用されるために、工夫を続けていくことが必要と感じました。

(企画渉外担当 並木 映李香)

7. 論文発表

当館職員の論文執筆の活動記録です。

大久保明美. 筑波大学附属図書館とオリンピック. 図書館雑誌. 2020, vol.114, no.5, p.248 - 250

大和田康代, 西彩花. 筑波大学附属図書館における「フレッシュマン・セミナー」の実施について: 中央図書館の事例を中心に. 大学図書館研究. 2020, vol.115, p.2069-1 - 2069-9

論文要旨:

筑波大学では、生の主体的な学習を支援するため、例年4月から6月にかけて新入生を対象とするオリエンテーションとして「フレッシュマン・セミナー」を実施している。本稿では中央図書館の事例を中心に、近年の参加対象者や実施体制の変遷、新型コロナウイルス感染症の影響による2020年度のオンライン化の詳細および今後検討すべき課題について報告する。

J-STAGE

<https://doi.org/10.20722/jcul.2069>

大久保明美. CMSを利用したデジタルアーカイブの構築<報告>. カレントアウェアネス-E. 2020, no.401, E2319

カレントアウェアネス-E

<https://current.ndl.go.jp/e2319>

松野渉. 透明で公正なディスカバリーサービスのために. カレントアウェアネス-E. 2021, no.407, E2351

カレントアウェアネス-E

<https://current.ndl.go.jp/e2351>



1. サービス・活動

日 付	内 容
2020.3.5～	新型コロナウイルス感染拡大防止のため学外者の利用制限およびセミナー室等施設の利用制限
2020.4.4／4.5／4.8～4.20	新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館（大塚）
2020.4.4／4.5／4.11／4.12／4.18／4.19	新型コロナウイルス感染拡大防止のため土日臨時休館（中央、医学）
2020.4.6～4.10／4.13～4.17	新型コロナウイルス感染拡大防止のため時間短縮開館（中央、医学）
2020.4.20	新型コロナウイルス感染拡大防止のため時間短縮開館（中央）、臨時休館（体芸、医学、図情）
2020.4.21～6.18	新型コロナウイルス感染拡大防止のため全館臨時休館
2020.5.8～6.17	教員向けにオンライン授業のための貸出・資料複写サービス実施
2020.5.13～2021.3.31	医中誌 Web の学外アクセスおよび同時アクセス数の拡大
2020.5.28～6.17	学生・教職員向けに Web 申込による文献複写の郵送サービス実施（費用大学負担）
2020.5.28～6.17	学位論文等執筆中の学生向けに郵送による資料の貸出・複写サービス実施（費用大学負担）
2020.6.19	開館再開（新型コロナウイルス感染拡大防止のため全館時間短縮開館、土日祝日臨時休館（中央、体芸、医学、図情）、日月臨時休館（大塚））
2020.7.2	学生・教職員向けに貸出・返却、学内所蔵資料・学外資料の複写の郵送サービス開始
2020.7.2～7.13	新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館（大塚）
2020.7.14	開館再開（新型コロナウイルス感染拡大防止のため時間短縮開館、日月臨時休館）（大塚）
2020.9.11	オンラインワークショップ「CMS を利用したデジタルアーカイブの構築」開催
2020.9.14	開館時間延長、研究個室の利用再開（中央、医学）
2020.10.1	開館時間延長（全館）、研究個室の利用再開（体芸）、土日開館再開（中央、医学）
2020.10.1	他大学・他機関図書館への紹介状発行の Web 申し込み受付開始
2020.11.2	土日祝日開館再開（体芸、図情）、開館時間延長（大塚）、日月開館再開（大塚）
2020.11.9	留学生向け 1 分チュートリアル動画の公開
2020.12.7	学生サポートデスクのオンライン相談開始（中央）
2021.1.12	新型コロナウイルス感染拡大防止のため開館時間短縮（大塚）
2021.1.16／1.17／2.25／2.26／3.12	大学入学選抜のため臨時休館（中央、体芸、医学、図情）
2021.2.18	令和 4 年度以降の電子ジャーナル等の整備方針決定
2021.3.3／3.4	館内工事のため臨時休館（中央）
2021.3.15	オンラインチャットでの調べ物相談試行開始
2021.3.16	中央図書館内の 360°VR 画像公開

2. 展示

日 付	内 容	主 催
中央図書館 展示		
2020.10.19～10.26	オープンアクセスおよびリポジトリに関するポスター展示（Open Access Week 2020）	附属図書館
2020.11.2～11.20	附属学校ポスター展	附属学校
2020.12.14～2021.2.28	附属図書館企画展「もう一度見たい名品～蔵出し一挙公開～」(Web 展示)	附属図書館
2021.1.25～1.29	セクシャルマイノリティ写真展「OUT IN JAPAN @ 筑波大学」	ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
2021.3.1～3.26	研究開発室ポスター展	附属図書館
図書館情報学図書館 展示		
2021.1.22～3.14	能順と連歌	附属図書館（図情図書館）／共催：図書館情報メディア系綿抜研究室

3.オリエンテーション・講習会

内 容	実施回数	参加者数
新入生オリエンテーション(学群生)	2回	2,242名
新入大学院生オリエンテーション(院生)	2回	110名
留学生オリエンテーション	1回	110名
新任教員オリエンテーション	1回	一 名
論文の探し方講習会	18回	488名
自由テーマオリエンテーション	4回	129名
科目関連指導	10回	2,040名
(内訳)フレッシュマン・セミナー	1回	1,638名
カウンセリングコース向け講習会	2回	60名
リハビリテーションコース向け講習会	2回	51名
経営システム科学専攻講習会	1回	31名
授業「知の探検法」	4回	260名
その他	2回	44名

※新任教員オリエンテーションは資料アップロードをもって実施としたため、参加者数は集計外です。

自由テーマオリエンテーションは対面で2回実施しました。その他の講習会・オリエンテーションは全てオンライン開催です。

日 付	内 容	講 師	参加者数
LA(ラーニング・アドバイザー) セミナー			
2021.1.5～	LA が筑波大生の質問にオンラインで答えてみた (You Tube での動画配信) 第1弾 「研究テーマ・進路」 第2弾 「レポート執筆について」 第3弾 「資料の探し方」	江頭健斗、大村浩之、酒井晴香、笹川大河、 古畑翼、廖曦彤、渡邊涼一 (附属図書館ラーニング・ アドバイザー)	680 名
その他の研究・学習支援企画			
2020.12.13	令和2年度スーパーサイエンスハイスクール(SSH) 「メディア虎の穴」 「学術情報の探し方」 (筑波大学附属駒場中・高等学校) (オンライン開催)	大和田康代 (学習支援担当)	14 名

4.研修・シンポジウム

日 付	内 容
2020.8.31～9.11	インターンシップ (筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類 2 名)

5.会議

日 付	内 容
2020.5.26/11.20/2021.2.12	次世代学習スペース整備検討タスクフォース
2020.6.2/7.28/9.14/11.30/2021.2.19	附属図書館運営委員会
2020.6.16～6.25/9.3	附属図書館収書専門委員会
2020.7.7～7.16/12.23～2021.1.8	附属図書館ボランティア専門委員会
2020.7.30/2021.3.16	附属図書館研究開発室運営会議
2020.11.12/12.10	電子ジャーナル整備方針検討タスクフォース
2020.11.24/12.24/2021.2.5	附属図書館将来構想検討タスクフォース
2021.2.5	つくば市域図書館連携協議会

6.研究開発室

プロジェクト名	担当室員 / 協力者
1. ラーニングコモンズにおける学習支援活動の検討	逸村裕 (図書館情報メディア系)、野村港二 (生命環境系)、島田康行 (人文社会系) / 三波千穂美 (図書館情報メディア系)、五十嵐沙千子 (人文社会系)、田川拓海 (人文社会系)、学習支援推進WG (学術情報部)
2. 情報探索行動の分析	逸村裕 (図書館情報メディア系) / 大森悠生 (知識情報・図書館学類)、土屋健人 (知識情報・図書館学類)、松野渉 (学術情報部)
3. 図書館への応用可能性を調べるクラウドソーシング実証実験	森嶋厚行 (図書館情報メディア系)、宇陀則彦 (図書館情報メディア系)、高久雅生 (図書館情報メディア系) / 原田隆史 (同志社大学)、福島幸宏 (東京大学)、松原正樹 (図書館情報メディア系)、大沢直史 (知識情報・図書館学類)
4. 附属図書館における貴重資料の保存と公開	
① 収蔵保管箱の劣化状態調査	松井敏也 (芸術系) / 渡邊朋子 (学術情報部)、篠塚富士男 (國學院大學 栃木短期大学)、久我昌江 (人間総合科学研究科)
② 附属図書館における貴重資料の保存と公開	山澤学 (人文社会系)、谷口孝介 (人文社会系) / 特別展WG (学術情報部)
5. 附属図書館の将来構想の検討	鈴木秀樹 (学術情報部)、谷口孝介 (人文社会系)、逸村裕 (図書館情報メディア系)、宇陀則彦 (図書館情報メディア系)、呑海沙織 (図書館情報メディア系) / 筑波大学附属図書館将来構想検討タスクフォース、学習支援推進WG (学術情報部)
6. 図書のロバスト性評価法の確立	江前敏晴 (生命環境系)、逸村裕 (図書館情報メディア系) / 望月有希子 (鶴見大学)
7. 利用スタイルに適合した次期図書館システムの検討	高久雅生 (図書館情報メディア系)、宇陀則彦 (図書館情報メディア系)、鈴木秀樹 (学術情報部) / 大久保明美、後宮優子、田村香代子、松野渉、嶋田晋 (学術情報部)
8. Phonoscape : 機械学習による記録写真から情景を再現する立体音響像	善甫啓一 (システム情報系)、逸村裕 (図書館情報メディア系) / 松野渉 (学術情報部)
9. デジタル画像の利用促進	宇陀則彦 (図書館情報メディア系)、和氣愛仁 (人文社会系) / 大久保明美、後宮優子、田村香代子、松野渉 (学術情報部)

メディアにみる 附属図書館

1.学内外のメディアに掲載された当館に関する記事

日 付	掲載元	メディア	掲載内容
2020.4.5	筑波大学新聞	新聞	図書館飲食スペース拡大 利便性向上求める声を反映
2020.7.13	筑波大学新聞	新聞	附属図書館 2カ月ぶり開館 閲覧席などは制限続く
2020.10.1	筑波大学新聞	新聞	ポストコロナ 新しいつづき ②大学教育編 大学図書館 電子資料提供は以前からの課題
2020.10.16	文教速報	雑誌	筑波大図書館研究開発室 オンラインワークショップを開催 CMSを利用したデジタルアーカイブ構築
2020.10.19	文教ニュース	雑誌	筑波大附属図書館 オンラインワークショップ CMSを利用したデジタルアーカイブの構築
2020.11.11	カレントアウェアネス-R	web	筑波大学附属図書館、留学生向けに図書館の使い方を1分間で説明した15本の動画シリーズ「1分チュートリアル」を公開
2021.1.8	カレントアウェアネス-R	web	筑波大学附属図書館、同館中央図書館の学生サポートデスクのスタッフによる企画「LAが筑波大生の質問にオンラインで答えてみた」の動画を公開
2021.1.22	朝日新聞	新聞	新型コロナ 見たかった…展覧会中断続々 WEB上で公開例も ※企画展「もう一度見たい名品～蔵出し一挙公開～」の紹介
2021.2.1	筑波大学新聞	新聞	特集 筑波大はいま 東日本大震災から10年 筑波大の被害 ※中央図書館資料の落下・損傷について
2021.2.1	筑波大学新聞	新聞	25年間の展示 ウェブで 附属図書館 45点の名品を公開
2021.3.5	読売新聞 [石川県地域面]	新聞	江戸期の連歌師・能順紹介 書状など 小松でミニ企画展 ※図書館情報学図書館展示「能順と連歌」を紹介
2021.3.18	カレントアウェアネス-R	web	筑波大学附属図書館、チャットでの質問受付の試行を開始
2021.3.19	カレントアウェアネス-R	web	筑波大学附属図書館、同館中央図書館の360°VR画像を公開

2.筑波大学附属図書館の刊行物

附属図書館年報2019年度

筑波大学附属図書館研究開発室年次報告2019

Prism (Practical Information for your Serendipity and Mind)

- No.105 中央図書館のカウンターをリニューアル!
- No.106 中央図書館学生サポートデスク ラーニング・アドバイザー2020
- No.107 勉強がわからなくなった時の解決法の提案
- No.108 レポート・論文の書き方～引用・註の書き方編 その壱～
- No.109 レポート・論文の書き方～引用・註の書き方編 その弐～
- No.110 レポート・論文の書き方～引用・註の書き方編 その参～
- No.111 ステイホーム中の調べもの ～電子ブック活用法～/問いの組み立てと先行研究レビュー
- No.112 研究テーマを考える時の便利ツール「マインドマップ」
- No.113 YouTubeコンテンツを用いた自宅学習 ～その1: 教育系YouTuber～/長期休暇に勉強する方へ おすすめの過ごし方
- No.114 資料の探し方:複数の参考文献一覧から探す/最初に何を読むべきか
- No.115 論文読みについて
- No.116 先行研究はどう書けばよいのか
- No.117 Webでラクラク!他大学から文献取り寄せ
- No.118 相互利用(ILL)サービス Q&A
- No.119 LAが筑波大生の質問にオンラインで答えてみた



3.筑波大学出版会の刊行物

発行日	タイトル	著 者
2020.6.30	もっと知りたい!!「科学の芽」の世界 PART7	永田恭介 監修 / 「科学の芽」賞 実行委員会 編
2020.11.2	フェルミオロジ ―量子振動と角度依存磁気抵抗振動	宇治進也 著
2021.3.22	競技スポーツにおけるコーチング・トレーニングの将来展望 ―実践と研究の場における知と技の好循環を求めて	高松薫 編集代表

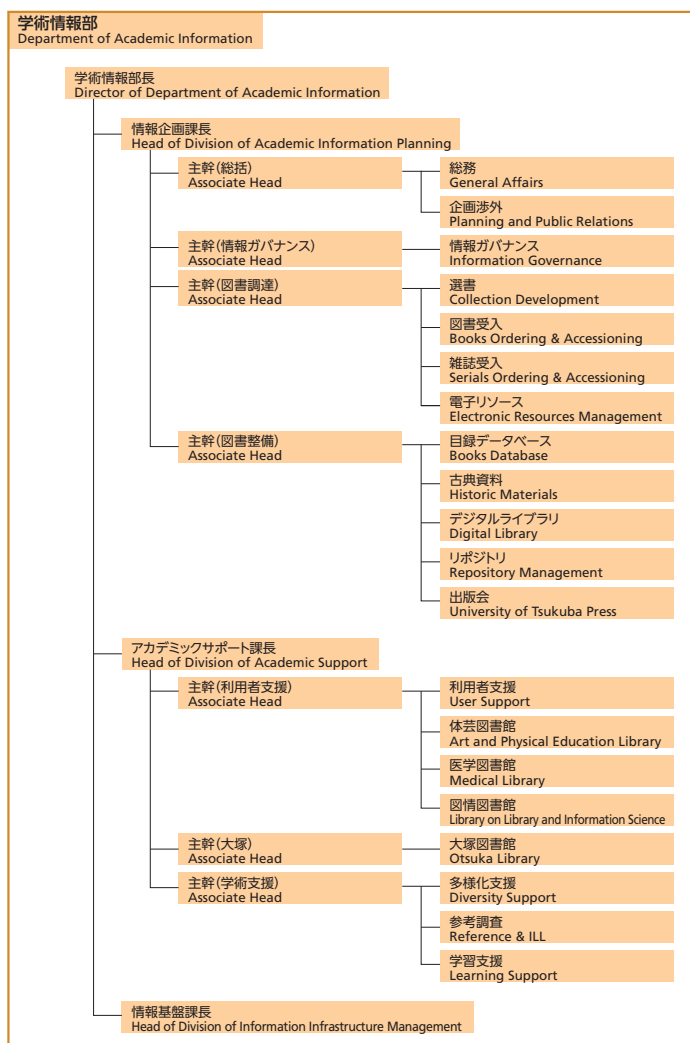
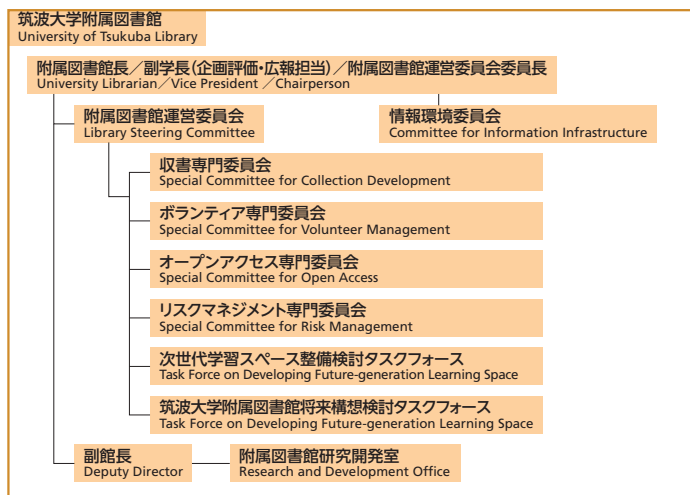
4.出版・放映・web上に掲載された所蔵・公開資料

日 付	内 容	資料種別	資料名	請求記号	資料ID	掲載書名等
2020.4.8	動画作 成・放映	和装古書	文部省発行錦繪：衣喰住之内 家職幼繪解之圖等	へ950-宮197	10088015217	BS-TBS「関口宏のもう一度！ 近現代 史」(2020年4月11日放映)
2020.4.14	出版	本学	日本人のよんだ漢籍：貴重書 と和刻本と：平成23 年度筑 波大学附属図書館特別展	026-N77	10011009410	松永昌三 [ほか] 編『情報文化』(朝 倉書店)
2020.4.20	出版	和装古書	臺灣教科用書國民讀本, 6	へ900-宮197	10088013919	安田敏朗著『「国語」ってなんだろう』 (清水書院)
2020.7.3	出版	貴重書	[鯨絵], [16]	726.1-N47	10084019136	東京都教育庁指導部指導企画課編、 大木聖子監修『防災ノート：災害と安 全：防災教育教材』小学校4～6年 生、中学生
2020.7.13	動画作 成・放映	貴重書	新古今和歌集, 上 新古今和歌集, 下	ル210-77 ル210-77	10076713906 10076713907	テレビ朝日 木曜ドラマ「未解決の女 警視庁文書捜査官」(8月13日放映)
2020.9.14	影印	和装古書	延喜式, 巻第24	ム212-8	10076911297	開館25周年記念企画展「関東のへそ 〜地勢とくらしのヒストリー〜」展示・ 図録・広報媒体(県立関宿城博物館)
2020.9.28	出版	和装古書	家屋雑考, 巻1	ア700-2	10076896354	藤田勝也著『平安貴族の住まい：寝 殿造から読み直す日本住宅史』(吉川 弘文館)
2020.10.7	出版	和装古書	論語, 存1 巻	口860-28	10076701136	中学校教材『国語スイッチ』光村図書 版3年、東京書籍版3年、三省堂版3 年、教育出版版2年
2020.11.19	出版	一般図書	Olympiska Spelen i Antwerpen 1920	780.69-B38	10013016673	企画展「1920→2020 アントワープ 大会から100年。復興と再生への挑 戦。」展示パネル(日本オリンピック ミュージアム)
2021.1.4	出版	貴重書	節用集	チ320-12	10076701260	『日本史探求』(高等学校用検定教科書)
2021.1.8	出版	和装古書	小児必用養育草 6巻, 巻1-2	サ800-14	10076898372	NHK「浮世絵EDO-LIFE 福袋」(2021 年2月25日放送)
2021.2.1	動画作 成・放映	和装古書	千束原追鳥狩記	キ300-206	10076716926	渋谷×北区 青天を衝け 大河ドラ マ館(飛鳥山博物館内)の映像コンテ ンツ「追鳥狩メイキング」にて使用
2021.2.16	出版	一般図書	日本埴輪圖集, 下	ヨ900-156-2	10076054301	春季特別企画展「斎藤清とハニワ!」 展示パネル、来観者用リーフレット(斎 藤清美術館)

※全 34 件から抜粋したものです。

組織図・歴代図書館長

1. 組織図

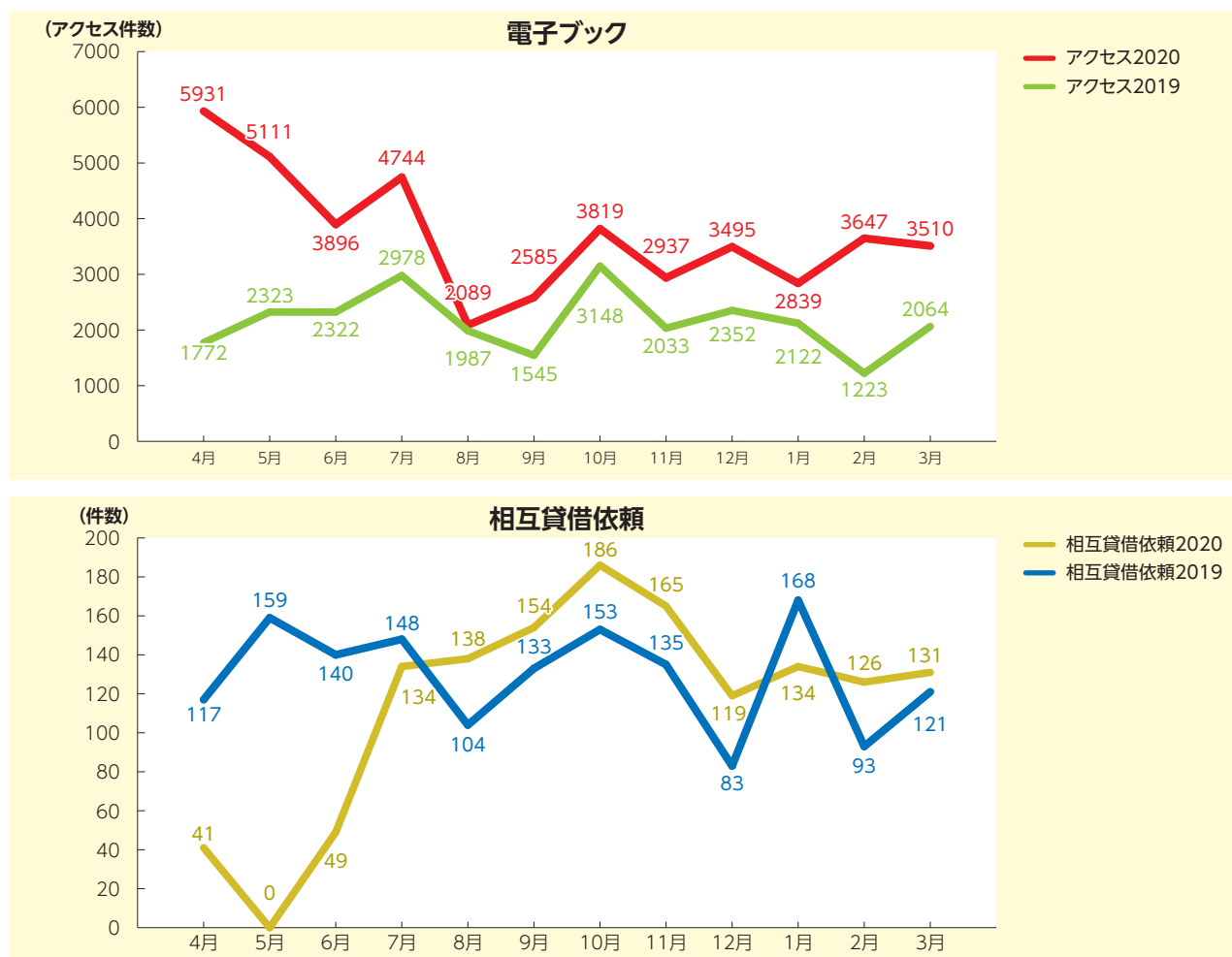


2. 歴代図書館長

	氏名	期間	備考
高等師範学校・東京高等師範学校	三宅 米吉	明治32年6月30日 ~ 明治36年9月6日	図書係事務監督
	三宅 米吉	明治32年9月7日 ~ 明治44年4月29日	主幹
	松井 簡治	明治44年4月30日 ~ 昭和4年3月31日	主幹
東京文理科大学	松井 簡治	昭和4年4月1日 ~ 昭和7年3月31日	
	諸橋 轍次	昭和7年3月4日 ~ 昭和20年10月3日	
	能勢 朝次	昭和20年10月4日 ~ 昭和24年5月31日	
	能勢 朝次	昭和24年6月1日 ~ 昭和24年8月30日	
東京教育大学	下村寅太郎	昭和24年8月31日 ~ 昭和29年7月15日	
	中西 清	昭和29年7月16日 ~ 昭和31年3月31日	
	熊沢 龍	昭和31年4月1日 ~ 昭和33年3月31日	
	熊沢 龍	昭和33年4月1日 ~ 昭和35年4月30日	
	肥後 和男	昭和35年5月1日 ~ 昭和38年3月31日	
	山崎 定	昭和38年4月1日 ~ 昭和40年3月31日	
	平塚 直秀	昭和40年4月1日 ~ 昭和42年3月31日	
	酒井 忠夫	昭和42年4月1日 ~ 昭和44年3月31日	
	宮嶋 龍興	昭和44年4月1日 ~ 昭和44年4月27日	事務取扱
	酒井 忠夫	昭和44年4月28日 ~ 昭和46年4月27日	
	橋本 重治	昭和46年4月28日 ~ 昭和47年3月31日	
筑波大学	武藤 聡雄	昭和47年4月1日 ~ 昭和51年3月31日	
	西谷三四郎	昭和51年4月1日 ~ 昭和53年3月31日	
	三輪 知雄	昭和48年10月1日 ~ 昭和49年5月1日	事務取扱
	酒井 忠夫	昭和49年5月1日 ~ 昭和50年4月1日	
	大饗 茂	昭和50年4月2日 ~ 昭和52年4月1日	
	高橋 進	昭和52年4月2日 ~ 昭和54年4月1日	
	宮嶋 龍興	昭和54年4月2日 ~ 昭和54年6月9日	事務取扱
	岡本 敬二	昭和54年6月9日 ~ 昭和56年4月1日	
	高橋 進	昭和56年4月2日 ~ 昭和56年5月1日	事務取扱
	郡司 利男	昭和56年5月1日 ~ 昭和60年3月31日	
	松浦 悦之	昭和60年4月1日 ~ 昭和60年4月3日	事務取扱
筑波大学	升田 公三	昭和60年4月3日 ~ 昭和62年6月8日	
	柳沼 重剛	昭和62年6月9日 ~ 平成元年6月8日	
	小川 圭治	平成元年6月9日 ~ 平成3年3月31日	
	新井 敏弘	平成3年4月1日 ~ 平成5年3月31日	
	北原 保雄	平成5年4月1日 ~ 平成9年3月31日	2期
	斎藤 武生	平成9年4月1日 ~ 平成11年3月31日	
	板橋 秀一	平成11年4月1日 ~ 平成13年3月31日	
	山内 芳文	平成13年4月1日 ~ 平成15年3月31日	
	林 史典	平成15年4月1日 ~ 平成16年3月31日	
	植松 貞夫	平成16年4月1日 ~ 平成22年3月31日	3期
	波多野澄雄	平成22年4月1日 ~ 平成24年3月31日	
	中山 伸一	平成24年4月1日 ~ 平成28年3月31日	2期
	西川 博昭	平成28年4月1日 ~ 平成30年3月31日	
	阿部 豊	平成30年4月1日 ~ 令和3年3月31日	

1. 推移と分析

相互貸借・電子ブック利用推移の比較



※4月21日～6月19日全館臨時閉館

2020年度および2019年度の電子ブックアクセス件数・相互貸借依頼件数を月ごとのグラフで表しました。

2020年度の電子ブックのアクセス件数は全ての月で前年度を上回っており、1年を通して電子ブックがより活発に利用されていたことを示しています。筑波大学は新型コロナウイルス対策として、2020年度は学生に不要な入構を控えるよう通知し、また、オンライン授業を推奨していました。学生や教員による大学へのアクセス機会の減少に伴い、図書館の蔵書資料を利用する機会が減ったため、リモートアクセスが可能な電子ブックが多く利用されたと考えられます。これは、2020年4月21日から6月19日まで図書館が全館臨時閉館となり、この時期に電子ブックアクセス数が顕著に増加していたことから読み取れます。これ以降、電子ブックの利用が習慣づけられたこともアクセス数増加の一因となりました。

相互貸借については、2020年の4月から6月にかけて、筑波大学だけではなく全国で大学図書館の臨時閉館やサービス縮小が相次ぎ、この期間の依頼件数は前年と比べて大きく落ち込んでいます。対して、8月から12月にかけては前年度に比べ2割程度の件数増加が見られます。要因としては、閉館時に利用できなかった資料を後から取り寄せたこと、そして利用者が直接他大学に訪問しての資料の閲覧が適わなくなり、代替手段として相互貸借を利用したことが考えられます。

2020年は統計においても新型コロナウイルスの影響が強く表れた年となりました。引き続き感染症対策が講じられる中、図書館利用の変化について、今後も注目が必要です。

統計

2020(令和2)年度

2.利用統計

		中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
年間開館日数 (日)	平日	195	196	196	196	168	—
	土・日・祝日	51	30	51	36	56	—
	合計	246	226	247	232	224	—
入館者数(人)	平日	116,626	28,653	64,631	9,932	4,072	223,914
	(学外者 内数)	150	0	0	0	159	309
	土・日・祝日	19,939	2,372	8,574	848	1,831	33,564
	(学外者 内数)	5	0	0	0	32	37
	合計	136,565	31,025	73,205	10,780	5,903	257,478
平均入館者数(人)	(学外者 内数)	155	0	0	0	191	346
	平日	598	146	330	51	24	—
	(学外者 内数)	1	0	0	0	1	—
	土・日・祝日	391	79	168	24	33	—
	(学外者 内数)	0	0	0	0	1	—
貸出冊数(冊)	1日当たり	555	137	296	46	26	—
	(学外者 内数)	1	0	0	0	1	—
	学群生	53,618	10,995	6,336	5,078	109	76,136
貸出利用者数(人)	院生	52,444	8,135	3,042	3,090	5,611	72,322
	教員	22,935	3,805	4,321	2,965	2,973	36,999
	学外者	40	6	0	3	0	49
	その他	90	0	0	0	0	90
	合計	129,127	22,941	13,699	11,136	8,693	185,596
	学群生	19,274	4,235	3,124	2,064	54	28,751
	院生	15,790	2,928	1,181	1,085	1,728	22,712
文献複写(コピー) (件)	教員	4,815	630	1,386	812	607	8,250
	学外者	20	1	0	1	0	22
	その他	10	0	0	0	0	10
	合計	39,909	7,794	5,691	3,962	2,389	59,745
	学外依頼	2,817	447	1,727	338	1,195	6,524
相互貸借(図書) (件)	学外提供	1,670	157	266	74	99	2,266
	合計	4,487	604	1,993	412	1,294	8,790
	学外借受	1,028	80	33	89	220	1,450
レファレンス件数(件)	学外貸出	1,702	123	60	80	85	2,050
	合計	2,730	203	93	169	305	3,500
	学生	5,049	762	426	375	1,879	8,491
資料に関するもの	教職員	4,034	552	2,339	480	719	8,124
	その他	775	14	4	10	197	1,000
	合計	9,858	1,328	2,769	865	2,795	17,615
	資料に関するもの	6,716	908	2,704	672	1,989	12,989
	利用案内・指導	3,126	420	65	189	806	4,606
事実に関するもの	16	0	0	0	4	0	20
	合計	9,858	1,328	2,769	865	2,795	17,615

※新型コロナウイルス対策のため、学外者の入館は原則停止

webコンテンツアクセス数

webサイトアクセス件数	件
学内	233,821
学外	982,718
合計	1,216,539
※システム更新のため2・3月に各1週間程度未集計期間あり	
つくばリポジトリアクセス件数	件
メタデータアクセス数	2,126,166
本文ダウンロード数	4,171,717
主要な電子ジャーナルフルテキストアクセス件数	件
Cambridge Journals Online	10,630
JSTOR	36,844
Nature	304,067
Oxford Journals	66,517
ProQuest Central	28,305
Science	156,358
ScienceDirect	872,132
SpringerLink	210,209
Wiley Online Library	333,305

主要なデータベースアクセス件数(サーチ数)	件
Business Source Complete	3,128
InCites-Journal and Highly Cited Data	12,033
Lexis Advance	4,956
Oxford English Dictionary	2,783
ProQuest Central	13,384
SciFinder-n(Academic)	85,326
Web of Science	210,566
医中誌Web	85,514

主要な電子ブックアクセス件数	件
Cambridge University Press	1,470
ProQuest Ebook Central	3,629
Maruzen eBook Library*	12,503
EBSCO eBooks	1,559
Springer eBooks	18,235
Wiley Online Library	7,207

*タイトルアクセス数(その他はフルテキストアクセス数)



3. 基盤統計

施設環境

(2020年度末現在)

	中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
建物面積(m ²)	19,330	3,518	2,793	2,848	1,552	30,041
座席数(席)	1,131	369	350	254	132	2,236
利用者用PC台数(台)	148	62	70	32	24	336

図 書

(冊)

		中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
年度受入 冊数	(和洋区分) 和書	8,239	2,108	1,205	1,735	950	14,237
	洋書	1,833	285	70	906	88	3,182
	合計	10,072	2,393	1,275	2,641	1,038	17,419
	(受入区分) 購入	6,083	1,008	1,101	1,436	863	10,491
	寄贈	3,303	1,229	126	1,109	58	5,825
	製本	625	154	48	95	113	1,035
	その他	61	2	0	1	4	68
	合計	10,072	2,393	1,275	2,641	1,038	17,419
蔵書冊数	(和洋区分) 和書	1,136,418	201,998	95,434	186,905	55,719	1,676,474
	洋書	799,595	68,214	80,782	75,090	26,988	1,050,669
	合計	1,936,013	270,212	176,216	261,995	82,707	2,727,143

雑誌(冊子)

(新聞は含めない)

内 訳	年度受入タイトル数			所蔵 タイトル数
	購入	寄贈	計	
和雑誌	732	5,499	6,231	17,790
洋雑誌	329	589	918	12,969
合計	1,061	6,088	7,149	30,759

つくばリポジトリ 累積登録件数

(2020年度末現在)

内 訳	件 数
学術雑誌掲載論文	11,318
学位論文全文	5,379
学位論文内容・審査の要旨	10,654
修士論文	385
紀要論文	21,890
研究報告書	4,281
会議発表資料	453
講義資料	156
研究業績目録	23
貴重書コレクション	132
つくば3Eフォーラム	95
A-LIEP	65
その他(図書)	645
合計	55,476

電子ジャーナル契約タイトル数

(有料契約誌のみ)

内 訳	タイトル数
Cambridge Journals Online	412
JSTOR	963
Nature	30
Oxford Journals	248
ProQuest Central	25,000
Science	1
ScienceDirect	2,316
SpringerLink	1,607
Wiley Online Library	1,401
その他	5,046
合計	37,024

提供データベース・検索ツール

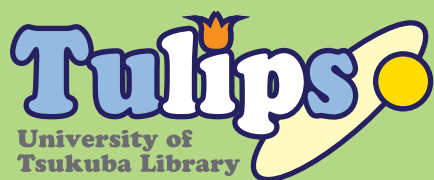
●主要契約データベース

データベース名
Business Source Complete
CINAHL
D1-Law.com
InCites-Journal and Highly Cited Data
Lexis.com
Oxford English Dictionary
ProQuest Central
PsycINFO
SciFinder-n(Academic)
Web of Science
Westlaw Japan
医中誌Web
聞蔵II ビジュアル
雑誌記事索引集成データベース
ジャパンナレッジLib
日経テレコン21
毎索
ヨミダス歴史館

電子ブック契約タイトル 累積数

(2020年度末現在)

内 訳	タイトル数	
	和	洋
Cambridge University Press	—	1,675
ProQuest Ebook Central	—	651
Maruzen eBook Library	2,742	491
EBSCO eBooks	492	1,068
Springer	—	28,380
Wiley Online Library	—	1,138
その他	72	3,783
合計	3,306	37,186



筑波大学附属図書館

〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1
TEL 029-853-2347 FAX 029-853-6052
voice@tulips.tsukuba.ac.jp
<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/>

20

令和3(2021)年6月30日発行
デザイン印刷: マザータンク